

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	②観光まちづくりの推進			
(施策の小項目)	○魅力ある観光まちづくりの支援			
主な取組	観光地アクセス道路の重点的緑化事業	実施計画 記載頁	180	
対応する 主な課題	○中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、観光地アクセス道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	0km 道路緑化・重点管理延長			→	70km (累計)	→	県
	観光地アクセス道路の緑化・重点管理						
担当部課	土木建築部 道路管理課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄フラワークリエイション事業	383,000	374,697	国際通りや首里城等の観光地へアクセスする26路線(50km)について、緑化(草花等)を実施した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
道路緑化・重点管理延長			35km	50km
推進状況	進捗状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	計画 35.0kmに対し、実績実測 50kmとなっており、順調に進捗している。国際通りや首里城等の観光地へアクセスする26路線(50km)について、緑化(草花等)を実施したことにより、観光地沖縄としてのイメージアップと、観光客の受入れづくりを推進することができた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄フラワークリエイション事業	490,000	平成26年度までに緑化した箇所の継続と新たに観光地へアクセスする道路への緑化を推進する。計画値:52.5km(累計)	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

定期的なパトロールや、各土木事務所、沖縄県緑化種苗協同組合、沖縄県造園建設業協会と定期的に会議を行い、鉢の生産状況の確認や、品質の確保や向上、効果的な飾花手法について検討を行った。
また、品質確保や業務の効率化を図るため目的に、管理内容や積算体系の統一化を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
観光地アクセス道路の緑化延長	0km/80km (23年)	70km/80km (24年)	70km/80km	70km/80km	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	国際通りや首里城等の観光地へアクセスする26路線(50km)について、緑化(草花等)を実施したことにより、観光地沖縄としてのイメージアップと、観光客の受入を推進することができた。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

沖縄観光のイメージアップのため、観光地までの主要アクセス道路について、年間を通して花と緑のある良好な道路空間を創出し、道路景観の向上と維持させる取り組みが求められている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

年間を通して花や道路植栽を良好に保つためには、気候や周辺環境に応じた花木や草花を選定し、適切な育成点検や灌水を行うことが重要である。

4 取組の改善案(Action)

定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、いわば育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図っていく。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	②観光まちづくりの推進			
(施策の小項目)	○魅力ある観光まちづくりの支援			
主な取組	主要道路における沿道空間の緑化事業	実施計画 記載頁	180	
対応する 主な課題	○中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄らしい亜熱帯の特性を生かした魅力のある花や緑であふれる県土を形成するため、主要道路の沿道空間における植樹等を強化し、沿道環境に配慮した道路空間を創出することで、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	0km 道路緑化・育成管理延長			→	280km (累計)	→	県
	亜熱帯性気候を活かした道路植栽・街路樹の育成管理						
担当部課	土木建築部 道路管理課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
県単道路維持費	744,046	744,046	沿道空間における除草(年平均2.4回)や道路植栽・街路樹の剪定等を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
道路緑化・育成管理延長			280km	280km
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	計画280kmに対して、実測280kmの道路緑化・育成管理を行っているが、適正管理とされる除草(年4回)には及ばないものの年平均2.4回の除草等が行えたことから、やや遅れとなっている。 本取組の実施効果としては、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図ることができた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
県単道路維持費	785,259	平成27年度は、今年度以上に除草(年平均2.4回以上)や街路樹の剪定等を実施し、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図る。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成26年度は対前年度で約6千万円の予算の増額により、道路利用者の多い区間の除草や、信号や標識の視認性を阻害している街路樹の剪定を行うことで、安全性の向上や良好な道路空間の創出を図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
観光アクセス道路の緑化延長	0km/80km (23年)	70km/80km (24年)	70km/80km	70km/80km	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明
適正管理としては、年4回の除草と、数年に1回の剪定が必要である。現状では、年平均2.4回の除草と、必要最小限(交通等支障箇所)の剪定をし、二酸化炭素排出量の減少に寄与することが出来た。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・沿道環境に配慮した道路空間の創出のためには、年4回の除草作業が必要で、予算面で未だ厳しい状況である。また、除草を優先していることから、街路樹の剪定に関しては必要最小限でしか行えず、適正管理の観点からは改善すべき課題が多い。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・現状の予算規模では、年2.4回の除草と一部街路樹の剪定しか行えないことから、予算を増額確保する必要がある。また、シルバー人材センターやボランティア等も活用し、地域との協力体制を築きながら適正な管理を行っていきたい。

4 取組の改善案(Action)

・適正管理(年4回実施)により良好な沿道空間を創出する必要があることから、維持管理費の予算増額と協力団体(シルバーやボランティア等)の増員も含め取り組んでいきたい。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備	
施策	②観光まちづくりの推進		
(施策の小項目)	○魅力ある観光まちづくりの支援		
主な取組	宮古広域公園整備事業	実施計画 記載頁	184
対応する 主な課題	○中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	伊良部大橋の開通により一体となった宮古圏域において、観光振興と定住環境の整備に寄与する広域的なレクリエーションの場として、宮古広域公園を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本構想策定		基本計画、環境アセス、用地補償、整備			→	県 宮古島市
	担当部課 土木建築部 都市計画・モノレール課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
宮古圏域広域公園基本計画策定等事業費	36,030 (5,030)	15,044 (5,030)	宮古広域公園(仮称)計画検討委員会を2回開催し、基本構想を策定した。また、引き続き基本計画策定に向けた検討を行った。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
宮古広域公園(仮称)計画検討委員会			2回	2回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	宮古広域公園(仮称)の公園テーマの設定や建設地を決定し、基本構想を策定した。引き続き検討委員会を開催し、基本計画の策定及び環境アセスメントに着手しており、整備に向け年度別計画どおりに進捗している。 宮古広域公園(仮称)を整備することで、宮古圏域の観光リゾート地としての魅力向上、交流人口の拡大に寄与する。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
宮古圏域広域公園基本計画策定等事業費	53,786 (20,986)	宮古広域公園(仮称)における施設配置や管理運営計画を策定し、基本計画策定に向けた検討を行う。また、環境アセスメントにおける環境配慮書(案)を作成する。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

パブリックコメントを実施し、観光面、防災面、地元住民利用など、公園に対する要望について多様な意見を踏まえた上で、基本構想を策定した。
また、検討状況について、宮古島市と密に情報共有をし、適宜意見交換を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
都市計画区域内緑地面積	65,155ha (18年度)	69,013ha (23年度)	—	↗	—
状況説明	平成22年度に南城市玉城及び知念が都市計画区域に追加されたこと等から、現状値の緑地面積は基準値より増加した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・県は広域公園のテーマとして「海と海辺を活かした公園」を掲げており、宮古島市が要望する防災公園計画との調整を要する。
- ・観光面や地元住民利用など多様なニーズへの対応が求められる。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・防災機能については、県の防災関係計画との整合を図りながら、広域公園の役割を整理する必要がある。
- ・多様なニーズを汲み入れることや既存の公園の状況を考慮するため、宮古島市との連携が重要。

4 取組の改善案(Action)

- ・検討委員会において、観光面だけでなく地元住民の利用への配慮や防災機能のあり方を検討し、整備に向けた基本計画の検討を進める。
- ・県と宮古島市との連携を強化するため、検討委員会(2回)等による情報共有及び意見交換を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	②観光まちづくりの推進			
(施策の小項目)	○魅力ある観光まちづくりの支援			
主な取組	離島空港ちゅらゲートウェイ事業	実施計画 記載頁	184	
対応する 主な課題	○中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	離島観光のブランドイメージを高めるため、離島の玄関口である空港において飾花を行い、年間を通して花で彩られた離島空港を演出する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		3空港	3空港	3空港	3空港	→	県
	空港ターミナル地区の緑化						
担当部課	土木建築部 空港課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
離島空港 ちゅらゲート ウェイ事業	11,000	10,929	新石垣空港他2空港において、ターミナル及び周辺へのプランター設置や植栽柵への植え付けで飾花を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
飾花空港数			3空港	3空港
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	新石垣空港他2空港において、計画通りにターミナル及び周辺へのプランター設置や植栽柵への植え付けで飾花を実施した。 飾花により離島観光のブランドイメージを高めることができた。特に新石垣空港では、空港銘板周辺にプランターを設置したことで、観光客の記念撮影箇所として利用されている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
離島空港 ちゅらゲート ウェイ事業	11,000	3空港(新石垣空港、宮古空港、久米島空港)において、ターミナル及び周辺へのプランター設置や植栽柵への植え付けで飾花を実施する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

・委託業務の早期発注に努めた結果、平成25年度は11月契約だった業務が、平成26年度は年度当初の4月に契約でき、年間を通して飾花することができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
離島空港の年間旅客数	337万人 (24年度)	383万人 (25年度)	407万人 (26年度)	↗	—
状況説明	八重山圏域に新石垣空港が開港したことで離島航空路線全体の旅客数は増加しており、平成26年度の年間旅客数は、平成25年度より24万人の増加となった。 また、同事業を実施し離島観光のブランドイメージを高めることにより、離島観光のリピーターが増加すると見込まれる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・県及び市町村の関係機関等における観光プロモーション等により、沖縄県の離島の認知度が高まっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・更なるイメージアップ効果を図るため、離島地域に応じた飾花する花の種類、年間を通した飾花時期、飾花配置等について、改善の検討を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・観光客に、より沖縄らしいイメージを与えるため、離島地域に応じた飾花する花の種類、年間を通した飾花時期、飾花配置等について、検討を行っていく。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	②観光まちづくりの推進			
(施策の小項目)	○誰にでも優しい観光地づくり			
主な取組	案内表示の充実強化(道路案内標識等)	実施計画 記載頁	181	
対応する 主な課題	○外国人観光客の受入体制については、多言語表記による観光案内板の整備などが観光客数の拡大傾向に追いついていないことや、国際的な観光地に比べ脆弱な決済インフラや通信インフラの解消が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	道路案内標識の適切な設置および修繕・更新を行うとともに県内の主要な地名を示す目標地や主要な観光地を示す著名地点等をローマ字、英語を併記することで外国人観光客等の道路利用者に対してわかりやすい情報提供を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		12基 案内標識の 設置			→	→	県
	案内標識の設置						
担当部課	土木建築部 道路管理課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
公共交通 安全事業	564,515 (209,024)	423,469 (240,174)	案内標識(12基)の修繕・更新を行った。	一括交付 金 (ハード)
活動指標名			計画値	実績値
案内標識の設置			12基	12基
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	順調に事業進行中(計画12基、実施12基)であり、外国人観光客を含めた道路利用者の移動の円滑化が図れ、観光振興に資することができる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
公共交通 安全事業	658,623 (175,623)	引き続き、案内標識(12基以上)の修繕・更新や整備を行う。	一括交付 金 (ハード)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

道路案内標識の表示内容を点検し、国・県の道路管理者による沖縄ブロック標識適正化委員会を開催し、積極的に情報提供、共有を図った結果、計画通りに推進することができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	23.50%	向上	0.7ポイント	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
状況説明	観光立県として、道路案内標識が外国人旅行者にもわかりやすいものとなるよう、関係部署とも連携して、事業を推進することで、成果指標の目標達成に寄与するものとする。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・国土交通省から各地方公共団体へ平成25年9月の道路案内標識改善方針(案)が通知されたが、一部の標識においては、ローマ字表記から英語による表示・表記に改善されていないものがある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・観光立県として、道路案内標識が外国人旅行者にもわかりやすいものとなるように国・県の道路管理者が一体となり、英語表記への改善を推進していく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・道路案内標識の英語表記については、表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ改善を実施するものとし、引き続き、修繕・更新の整備も行っていく。

・沖縄ブロック標識適正化委員会にて積極的に情報提供し、表記改善を推進していく。